

弱視児が見やすい教材を作成するために

「見やすい教材」のためには、「文字の拡大」、「適切な照明の確保」、「図と地のコントラストの調整」などの工夫を、児童生徒の実態に応じて行うことが必要です。

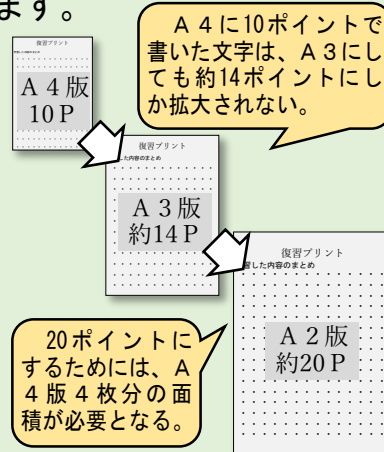
今回は、「文字の拡大」について紹介します。

課題 コピー機による単純な拡大には限界があります。

「文字が見えにくいのであれば、コピー機で拡大しよう。」と考えるかもしれません。例えば、A 4に10ポイントで書かれた文字をA 3に拡大すると、文字は14ポイント程度に拡大されます。

しかし、視力0.1前後の児童生徒の場合、見やすく分かりやすい文字は22～26ポイント程度とされていますので、A 2まで拡大しても20ポイント程度にしかありません。

これでは新聞紙とほぼ同じ大きさとなり、机の上に広げることではできませんし、字間や行間も2倍に広がり、決して読みやすいとは言えません。



解決策 弱視児用のプリントを作しましょう。

現在は、多くのプリント類はパソコンで作成することが多いと思います。パソコンで作ったものは、簡単に文字の大きさや、フォント、字間、行間を調節することができますので、弱視の児童生徒一人一人に合った文字の大きさにプリントを提供することができます。

具体的には

「読みやすい文字の大きさ」を確認しましょう。

弱視の児童生徒の見やすい文字の大きさは、視力から単純に計算することが難しく、一人一人異なるため、どの程度の大きさが必要かを調べる必要があります。

読みやすい文字の大きさの調べ方（例）

- ①いくつかの文字サイズで書かれた読み物教材を準備する。
- ②教材をできるだけ速く音読してもらい、1分間に読めた文字数を記録する。

チェックリスト 見やすいプリント教材を提供しましょう。

- ☐ どのような文字の大きさが読みやすいのか、客観的に確認している。
 - ➡ 文字を読むスピードを計測してより効率的に読むことができる文字の大きさ等を確認しましょう。
- ☐ 弱視の児童生徒が見やすい文字の大きさのプリントを提供している。
 - ➡ コピー機による拡大ではなく、パソコンで適切な文字の大きさ、フォント、字間、行間に整えましょう。

「弱視の児童生徒への指導方法等の在り方」について研修ができます。

北海道立特別支援教育センター 電話 011-612-6211

